

令和7年度 第4回芳賀町学校運営協議会会議録			
日 時	令和7年11月25日（火）18：00～20：00		
場 所	町民会館 多目的室		
出席者	[学校運営協議会委員] 吉永正志、今井由佳、稲川浩司、岩崎 進、小林春華、岩村智織、迫田信子、七井哲史、小池正樹、野澤儀之、岡田由美子、中山このみ、荒井一浩、森 敦 (協議会委員出席14名)		
	[芳賀東小学校]（校長）手塚幸子 （教頭）仙波茂夫 （地域連携教員）高久 誠 [芳賀北小学校]（校長）荒井利之 （教頭）小堀美樹 （地域連携教員）諏訪穂乃香 [芳賀南小学校]（校長）関本恵美子（教頭）永島寿一 （地域連携教員）高岡知美 [芳賀中学校]（校長）津村勝之 （教頭）高橋輝秋 （地域連携教員）鶴見優希		
	[教育委員会事務局] (学校教育課長) 齊藤和之 (学校教育係長兼管理主事兼指導主事) 松本 薫 (学校教育課指導主事) 涌井俊裕 (学校教育課指導主事) 那花和哲 (生涯学習課長) 田中一紀 (生涯学習課長補佐兼係長) 吉葉康弘 (生涯学習係主査) 佐藤彩加 (生涯学習課主査) 小林春彦 (社会教育指導員) 柳岡敦子		
	司 会	小林春彦	書 記
概 要	1 開会 2 あいさつ（稲川浩司 芳賀町学校運営協議会長） 3 協議 (1)シェアスペースWEL、石橋複合施設視察報告（岩村智織 学校運営協議会副会長） (2)本日の協議内容の説明（事務局） (3)熟議 (4)熟議内容の共有 (5)会長のまとめ (6)その他 4 事務連絡 5 閉会		
協議事項			
1 開会			
2 あいさつ（稲川浩司 学校運営協議会長） 皆さんこんばんは。今日は11月25日。12月も目前で、充実したスポーツ活動や文化活動など学校では様々なイベントが行われてきて、2学期も終了に近づいてきました。そんなお忙しい時期にお集まりいただきまして大変ありがとうございます。また、委員の皆さんにはなるべく参加をしていただきたところなので、お忙しい時間ではありますがご参加ありがとうございます。今日は熟議になります。このあと事務局からまた詳しくご説明もいただきますが、原点に立ち返って、こ			

れまでの学校別分科会形式とはまた違う形態で行います。地域の学校同士が仲良くなれたらと思います。皆さんからたくさんご意見をいただいて、次回に繋げられるような議論にしていいただければと思います。

3 協議

(1) シェアスペースWEL、石橋複合施設視察報告（岩村智織学校運営協議会副会長）

※学校運営協議会だより第5号参照

シェアスペースWELさんと、石橋公民館の2か所を視察しました。公民館は本当に新しく、2年程度しか経っていません。児童館などいろいろなスペースがあり、スタジオもあり、ダンスを練習できる場もあって若い方をいかにこの公民館に集めるかというようによく考えられていました。また、施設全体が綺麗で自習室もありました。こちらは行政が入っているという感じできちんとしたところでした。そこから歩いてすぐのところにWELがありました。6月の研修で来ていただいた鈴木さんとオーナーの方にお話を伺いました。その日も小学生などが来ていて、駄菓子を買ってのんびりしていました。また、コーヒーショップとフリースペースは低予算でした。ここはもう完全に民営で行政や補助金などが全く入っていないので、その分自由にいろんなことができるということですが、ただその採算を取るのは結構大変という話でした。シェアスペース、サードプレイスの必要性をすごく感じましたが、やはり石橋は徒歩圏内に小学校とか中学校もあって、なかなかちょっと芳賀町で同じようにやるのは難しいかなと思いました。後日、コーヒーを買いに寄ったときに、やはり小学生がたくさん来ていました。駄菓子を買ってのんびりしていて、中に座りきれない中学生などは外でお湯をもらってカップラーメンを食べてはしゃいでいました。「誰でもいつでもどんなときでも来ていいよ。」という雰囲気がいいと思いました。

(2) 本日の協議内容の説明（事務局）

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5の改正について

- ・学校運営基本方針の作成と承認に、教職員の業務量管理と健康確保措置が追加された。
- ・働き方改革の目的は、より質の良い教育活動を持続的に提供できるようにすること。その先には子どもたちの笑顔がある。それが教職員・保護者・地域住民の心の健康にもつながっていく。学校だけでできることには限りがあり、業務量も減らさなければならない。子どもたちの笑顔のために地域と学校が心を一つにしてできることを検討してほしい。

○テーマ：「学校と地域が仲良くなるには」

～地域と学校が心を一つにし、子どもたちのために学校でできること～

(3) 熟議

委員と担当教職員を5つの班に分けて話し合い。

(4) 熟議内容の共有

【①班】高久 誠 芳賀東小地域連携教員

スクールガードがないという状況があります。その原因の一つとして、多くがバス通学で、バス停まで保護者が送迎するため子供たちがほとんど歩く機会がないことが理由挙げられました。そのため、地域の人々と顔見知りになる機会も少なく、挨拶を交わすこともほとんどない状態です。このようなことを考えると、地域の人々ともう少し自然に触れ合う機会が必要ではないかと思います。強制的なものであるかも知れませんが、その一つのきっかけとしての懇親会や地域の人が主体となった文化祭、土日の小学校開放などの活動があれば良いのではないでしょう

か。学校で行う運動会や自治会が行っているお祭りなど、この町にはたくさんのイベントがありますので、そうした機会を活用していきたいと思います。

また、先生が異動しないことが大切。異動が何を意味するかというと、せっかく人間関係を築いたのに役員や先生方がお別れになると、また一から関係を築かなければならず、これが大変だということです。そのため、こうした意見が出ました。23歳で採用され、60歳まで同じ学校にいる人はほとんどいないと思いますが、ある程度異動しないことも重要です。人間関係をしっかり築き、長く続けることはさらに大切だと感じました。

最後に、地域の人々は、学校に子供がいない場合やボランティアをしていない場合、学校に行く機会がありません。そこで、得意なことを子どもたちに伝える機会があれば良いのではないかと思います。避難訓練などの際に地域の方を呼んで一緒に行うのも良いアイデアです。保護者や地域の人たちにもっと学校を身近に感じてもらうためには、オープンスペースやサロンのような場所が1か所あれば良いと思います。ただし、安全上の問題がありこれをクリアしなければなりません。例えば昼休みなどに自由に遊ぶことができるだけでも触れ合える機会になるのではないかと意見が出ました。

【②班】 岩村智織 副会長

北小は教職員とボランティアとの懇談を去年と今年に行ったことで、その距離がだいぶ縮まりました。8月の懇談では、担任の先生やT T、補助の先生、栄養士の先生も全員参加し、「こういうことをしてもらったら助かる」という意見がたくさん出ました。例えば、現在掃除や家庭科の補助などいろいろな活動をしています。習字のときに水道に1人付いていると助かるとか、音読を聞いているときに担任だけでなく他の人が褒めてくれるとやる気が出るという小さなお願いが多くありました。そのため、関係性が徐々にできてきていると感じています。

一方、東小と芳賀中では懇談を行っていないため、芳賀中で長く掃除を手伝っているものの、先生との距離がなかなか縮まらないという現状があります。また、交通指導員が見つからないのも問題です。掃除と交通指導は異なる役割がありますし、安全管理や毎朝の対応が必要ですので、交通指導員は無償ボランティアとして募集するのではなく、しっかりと研修を受け、有償の形で募集した方が良いのではないかと考えます。

芳賀中では自転車での登下校が多く怪我が多いので、そのサポートができると良いと思います。ただ、見守ってくれているものの中学生との関係があまりないので、助けや注意をするよりも学校に通報する形になってしまいがちです。この距離を縮めることが非常に重要です。先生方もボランティアが来てくれたときに何を要望していいのかわからず、来てもらっても何を話していいかわからないという程度だと厳しいので、芳賀中でも懇談会を開催した方が良いという意見でまとまりました。

北小では団体同士の横のつながりが少ないが、最近はマスターズさんと一緒に「スクールサポーターはがきた」も入ったことで、人の融通がしやすくなっています。今はコーディネーター同士で融通を図りつつ学校や地域の方々を巻き込んで、まず、ボランティアから先生たちとの距離を縮めていくことが大切だという意見が出ました。

【③班】 高山知美 芳賀南小地域連携教員

中学生のお話を伺いました。去年から中学生のボランティアについて町の担当の方が直接説明してくれているそうです。その結果、子供たちの心に響き自分事として「ボランティアをやろう」という生徒が増えたと聞きました。やはり、自分でやりたいという気持ちがとても大切だという

意見が出ました。

また、困りごととして青パト、草刈りの協力者や交通指導員が必要との話がありましたが、学校だけでは限界があるため、まず情報を広く伝える必要があります。町の広報誌や芳賀チャンネルで募集することで、学校が困っていることを知らない多くの人に情報が届くかも知れません。ただ、情報を出しただけでは動き出しにくい場合もあるため、何かの集まりで直接声をかけたり、「何人かで参加しませんか。」と、参加しやすいように工夫することも必要だという意見が出ました。

地域の人が気軽に入れるボランティアの部屋が必要で、集まって情報交換しながら「ここを手伝ってほしい」と気軽に伝えられる場所があれば良いという意見もありました。地域の人々と先生方が仲良くなるため飲み会を開いて顔見知りになり、必要なときに頼める関係を築くことが重要です。先生方の他にも中学生や子供たちと地域の方が顔見知りになり、「応援してあげたい」という気持ちを育むことで、関係性が深まるのではないかという意見が出ました。

【④班】永島寿一 芳賀南小教頭

学校の願いとしては、困ったときにボランティアの方がいらっしゃるのが理想だという意見が出ました。そのときにどう関わってもらうかについて、大きく3点が挙がりました。

1点目は人材の問題です。気がついたときに簡単な作業を頼める人や平日に学校に来られる人を見つけることが重要です。人材がいないと学校が困ったときに対応していただけないというのが1点目です。

2点目は、行事の際だけでなく、地域の人が気軽に学校に行ける環境を作ることが必要だという意見がありました。学校に地域の人々の居場所が必要であり、学校の敷居を低くし、気楽に「今日はちょっと行ってみよう」と思えるような場所(部屋)があることが重要です。

3点目は、ボランティアとして関わられる地域の方やOB・OGの参加も大切だという意見です。キーマンが声をかけることで、運動会の手伝いや協力を得ることにつながると考えられます。例えば、中高生が学校の図書館などを使って勉強を教える取り組みができると良いという意見が出ました。そのためには、フリーWi-Fiの設置など、環境整備も重要であるという意見が出ました。

①班で出た先生の異動に関しては仕方がないことなので、地域連携として良い仕組みができた際には、先生ではなくコーディネーターがその仕組みをつないでいくことが重要と考えられました。コーディネーターが活躍し、学校や地域をつなぐ役割を果たしていければ良いと思います。

【⑤班】那花和哲 学校教育課指導主事

現状としては、各学校でボランティアの方々が非常に主体的に動いてくださっていて助かっています。今後はさらに、気軽にふらっと学校に入ってもらえるような関係を作りたいという意見が出ました。

気軽な関係づくりに関しては、学校が主体ではなく、コーディネーターや地域の方々が主体になって担う形が望ましいという意見がありました。

ここで5班の提案として、つながり作りだけでなく地域リーダーを中心に「スーパーチーム」を作り、全ての学校を回っている人なきかけ作りをすることが良いのではないかと話し合いました。例えば、北小で行われた茶話会は非常に良かったので、東小でも同様の企画をしてみると良いと提案してみる。また、ボランティア同士の横のつながりが無い現状を改善するために、仲間を増やす努力をしたりうまくいっている例を紹介したり企画したりして、全校を巻き込んでいくスーパーチームを編成して取り組んだりすることで、横のつながりができていくのではないかと

という意見も出ました。

さらに、裾野を広げたり横のつながりをつくったり代替わりの問題を解決したりすることが課題として挙げられています。そこで、南小の「何にもしない合宿」が小・中学生だけでなく高校生も参加するようになっているので、大学生も参加してもらって若者の縦のつながりを増やし、学校全体や地域全体を巻き込むという話題が出ました。

(5) 会長のまとめ

今回は、今までの学校別分科会形式と異なり、学校混合のチームで話し合いをしていただきました。各班から出た意見には共通の内容があったと思います。例えば「地域の人が気軽に学校に行けるようにするには」というところが一つのポイントだと思います。今日ここでお茶を飲みお茶菓子を食べながら楽しく話をしたことが学校でもできるような仕組みづくりや、地域の人が学校で肩肘張らずに、ちょっとお茶を飲んで話ができる場の確保などが、各班の発表の中にも出ていたのではないかと思います。

また、北小さんで行っている懇談会にぜひ他の学校も参加して、北小のやり方を参考に各学校で行ってはどうでしょうか。実は私も参加をさせていただいたことがないので、ぜひ時間を作って参加をしないと、今日改めて思ったところです。

最終回では、のこの議論で出た意見を運営委員会で取りまとめ、さらに少し踏み込んだ話をしていけるといいのではないかと考えています。

4 事務連絡

5 閉会